

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な生徒へ多様な教育活動を展開し、教員と生徒・保護者との信頼関係を深め、中退率の減少を図り、地域から信頼される学校となることをめざす

1 めざす生徒像

- 自尊感情を高め、夢や進路の実現に向け前向きに努力する生徒
 - 集団生活の中で、自他ともに敬い愛し尊敬しあう生徒
 - 確かな学力と社会性を身に付けた、責任を持った行動のできる生徒
- 2 地域に根差した学校として、地域と密に連携し、その教育力の活用を図りまた地域への積極的な情報発信や貢献を行う。
- 3 全日制総合学科では、専門性を深める教育を展開し、授業の充実を図る。さらに総合学科としての施設設備の充実や専門教員による授業内容の向上を図る。また、普通科とは違った新たな生徒指導体制で臨む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 平成 24 年度に開設した総合学科のカリキュラムを見据え、基礎基本から応用にいたるまで、多様な学習ニーズに即した授業の充実を図る。

- ア 基礎学力の向上を図るとともに、総合学科として多様な選択科目をより充実させ、系列ごとに系統だった学習の確保を行う。
- イ 授業見学や研究授業および授業評価による、授業改善に重点を置く。
- ウ 積極的に体験的な学習や ICT を活用した授業展開を導入するとともに、基礎基本を重視した確かな学力を育成する。
- エ 平成 27 年度からの三学期制、50 分授業を見据えたカリキュラムの見直しと精選を行う。

※ 出席率を高め 1 年生で 70%、2・3 年生で 80% とする

※ 単位修得率を高め 75% とする

※ 授業アンケート“先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい”への肯定的な回答率を 90% へ

(2) 大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画における「エンパワメントスクール」への移行を見据えた教育課程の編成

2 生徒理解の促進と、生徒が主役の学校づくり

平成 24 年度に校長マネジメント推進事業中期計画推進費の指定を受け陶芸教室と農場の充実を図った。陶芸室と農場を活用し、地域交流を柱に地元から愛される咲洲高校への転換をめざす。

(1) 行事・クラブ活動・地域活動により魅力ある学校作りを実践する。

- ア 学校行事の内容充実を図り、全生徒の参加をめざす。
- イ 部活動や生徒会活動を活性化し地元地域との連携を行う。
- ウ 清掃活動を中心とした地域への奉仕活動も積極的に導入する。
- エ “クリーニンググリーン咲洲”を合言葉に 校内美化に努める。
- オ 生徒・地域・教員が互いに挨拶をする環境づくりに努める。
- カ 商業系列での珠算・簿記、1 年生に対する漢検全員受験等、資格取得の積極的な推奨を行う。

※ 行事参加率を 80% へ

※ 部活動入部率を 40% とする

※ 学校教育自己診断アンケートの“学校へ行くのが楽しい”への肯定的な回答率を 70% へ

※ 近隣 2 中学校からの入学者数の倍増

(2) 生徒理解と支援の徹底

”厳しさと優しさ”を持った生徒指導の徹底。生徒にとって安全で安心な居場所を提供し、全教職員で生徒の成長の為に支援を行う。

- ア 「なにかあれば、家庭訪問」を合言葉に、子どもの生活背景を踏まえたうえでの教育を実施する。家庭訪問及び授業参観・個人懇談を活用し、保護者との意思疎通を徹底する。
- イ 新入生を中心に中学校との連携を密にとり、中学校への支援も依頼しながら生徒育成にあたる。
- ウ 保健相談部を中心とし、配慮の必要な生徒の情報を全職員で共有し、また支援委員会が中心となり適切な支援を行う。
- エ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、外部機関との連携を視野に入れた支援を行う。
- オ 職員研修を積極的に実施し、教師のスキルアップを図る。
- カ 人権教育の充実を図り、全体計画を見直す。

※中退率を毎年前年比 10%減少させる

※入学した生徒の 7 割以上が卒業できる学校

※学校教育自己診断アンケートの“先生はよく声をかけてくれる”への肯定的な回答率を 90% へ

3 夢と志を持つ生徒の育成

(1) 早期(入学後すぐ)からのキャリア教育を実施し生徒一人ひとりの夢の実現に向け指導する。

(2) 総合的な学習の時間(「夢咲かそう」と志学、24 年度よりの「産業社会と人間」及び LHR を活用し、真の社会人として活躍できる指導計画を策定し、生徒全員の進路希望の実現をめざす。(卒業時進路先決定率 100%をめざす)

(3) 生徒の規範意識の醸成。

- ※ 遅刻者の大幅減少・頭髪指導・制服指導の徹底
- ※ SHR の定着
- ※ 卒業時の就職先未定者をゼロに

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 1 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>① 「授業がわかりやすい」や「教え方に工夫している」の項目は全学年とも半数以上の生徒が肯定的な意見である。また、学校や教師への生徒の評価は学年進行に伴い、高くなっている。これは「日々の学習活動の積み重ねを続けることによって、知識が深まる」ということが浸透してきている。</p> <p>② 「将来の進路や生き方について考える」については、全学年ともに 7 割以上の肯定意見である。これは学習活動が教科書の勉強だけでなく、幅広い視野を持てるように工夫されている成果の表れである。</p> <p>③ 教師側の意見も教材の工夫や指導方法の改善などに関して、前年度よりも評価が高くなっており、生徒への働きかけが功を奏してきている結果が前 2 項の上昇につながっている。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>保護者の意見で昨年よりアップした項目は「指導方針に共感できる」と「学校行事に子どもは積極的に参加」である。総合学科が 3 学年そろったことで、生活指導面の充実や行事の取組みが全校的に行われていることが理解されてきている。</p> <p>【学校運営】</p> <p>「授業参観や行事への参加」や「家庭への連絡」などについては評価が低くなっており、学校からの情報発信や伝達方法などに改善すべき点がある。対面で話ができる家庭訪問を増やす。また、懇談時以外にも学校へ足を運んでもらえる努力が必要である。行事の時の生徒たちの生の様子を見てもらえる工夫が肝要である。</p> <p>教職員の意見が反映されているという評価が低いので、広く意見を拾い上げて、効率的、弾力的な学校運営をめざしたい。</p>	<p>第 1 回(6/6) 学校経営計画の策定について 今年度の目標として部活動入部率を 40%、進路先決定率 100%をめざす。「エンパワメントスクール」への移行を見据えた改編に取り組む。「高校生活支援カード」を活用し、個別のサポートをする。修学旅行をとおして、コミュニケーション力をつけ、やる気を育てる。 ・興味もてる授業として、ICT 活用がある。DVD、アニメーションで英語力の向上を図る。また、学校案内など作成や文化祭での発表など興味もてるのではないかと。</p> <p>第 2 回(10/17) 学校経営計画の進捗状況について 「エンパワメントスクール」への移行を計画していたが断念する。 本年度の取組内容及び 9 月末進捗状況については、ほぼ計画通り実施できた。 ・放課後グラウンドで部活動をしている姿が見られる。本校(中学校)のバレーボール部が、咲洲高との合同練習に参加した。出前授業にも来てもらった。 ・計画、点検、評価がしっかりおこなわれている。学校協議会だけでなく、広く社会に発信できる機会があればよい。 ・学校経営計画は、ホームページに掲載されているが、細かいところまで見てもらえていないというのが実状ではないかと。 ・地域の祭では、雨の中、音楽部ががんばっている姿が見られた。活躍している姿をもっと地域に発信すべきである。</p> <p>第 3 回(2/6) 平成 26 年度学校評価および平成 27 年度学校経営計画 11 月 21 日、委員会会議において正式に平成 28 年度より募集停止が決定した ・平成 26 年度学校評価について全般的に少しずつではあるがよい方向である。 ・平成 27 年度学校経営計画及び学校評価については、数値目標をさらに高くしていることから意欲的な姿勢が見られる。 ・平成 27 年度学校経営計画について全員の承認をいただいた。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>生徒の授業への参加を促すとともに、“魅力ある授業作り”を重点課題に据え、進級・卒業数の向上を図る。</p> <p>(1) 生徒の学ぶ意欲の涵養</p> <p>(2) 基礎基本の習得</p> <p>(3) 教員の授業力の向上</p> <p>(4) 体験学習や ICT 機器の活用</p> <p>(5) エンパワメントスクールをめざす</p>	<p>(1) 本校の特色である少人数展開及び多様な選択科目を充実させ、個のニーズにあった充実した授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 27年度実施予定の三学期制、50分授業に向けて教育課程編成作業を進める。 <p>(2) 新入生及び2・3年生に対して「基礎力診断テスト」を行い、個々に応じた学びなおしと個人の学習力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科独自教材活用で基礎学力の向上をめざす(TTによるプリント学習等) <p>(3) 学期ごとに1回の教員による授業見学や管理職による授業観察を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年1回の教科毎の研究授業の実施 年2回の授業評価(生徒アンケート)を実施。1回目終了後改善計画を作成し2回目で検証を行う。 <p>(4) 実験実習を多く取り入れ、体験的学習の機会を多く持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話せる英語・使える英語を重視した授業等生徒が主体的に取り組める授業を展開する。 タブレット型PCを使った学習を導入 <p>(5) 本校がこれまで蓄積した“学びなおし”のノウハウを活かし、エンパワメントスクール指定をめざした教育課程等の作成を推進する。</p>	<p>総合学科1年生の60%、2年生の85%以上の進級 3年生の100%、普通科4年次生の50%以上卒業 授業アンケート“先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい”への肯定的な回答率を90%に 総合学科1・2年生の出席率を各5ポイントアップ</p> <p>(1) 総合学科を中心として授業内容の精選と改善のため教務部・系列長・SP委員会を中心に方策を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科の共通科目では基礎的な、系列では専門的な力をつけさせる為の平成27年度以降の教育課程の策定 単位修得率70% <p>(2) 1年生で年間を通して数学の個別プリント学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年で漢字学習を実施し、1年生全員による漢検受験の実施 大学進学を視野に入れた講習の実施 各学年で、遅進者対策の為の補習の実施 <p>(3) 教科ごとの年1回の研究授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間一人2回以上の授業公開及び授業見学の実施 授業評価 1回目より2回目の改善 <p>(4) 各教科でICT機器を活用した授業の実施</p> <p>(5) エンパワメントスクールに向けたカリキュラム・行事等を検討・アピールし、府教委からの指定を受ける。</p>	<p>()は前年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ●進級卒業 <ul style="list-style-type: none"> 1年70% (58%) (◎) 2年88% (82%) (◎) 3年93% (△) 4年58% (◎) ●授業アンケート (△) <ul style="list-style-type: none"> ・第1回肯定回答78% ・第2回肯定回答82% (1回78%、2回85%) ●出席率(◎) <ul style="list-style-type: none"> 1年68% (65%) 2年82% (78%) ●単位修得率(◎) <ul style="list-style-type: none"> 79% (65%) ●数学プリント学習(△) ●漢字検定指導 (△) <ul style="list-style-type: none"> 全員2年進級後受検へ ●講習実施 (○) <ul style="list-style-type: none"> 個別対応、関外大2名他 ●授業公開(○) <ul style="list-style-type: none"> 2回実施 教科研究授業実施 ●社・理・英・書等でICT機器活用 (○) ●エンパワメント (△) <ul style="list-style-type: none"> 平成28年募集停止
<p>2 生徒理解の促進と、生徒が主役の学校づくり</p>	<p>(1) 学校行事・部活動・生徒会活動・地域活動の活性化</p> <p>(2) 厳しく教え、優しく育てる生徒指導</p> <p>(3) 生徒の実態把握と支援</p>	<p>(1) 「魅力ある学校づくり」の一環として、行事・部活・地域連携・生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>ア・入学時オリエンテーションの内容を精選し、咲洲高校生としての自覚を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事へのクラス参加を奨励するとともに修学旅行・卒業アルバム作製等を通じて仲間作りや愛校心を芽生えさせ、魅力ある学校として認識させていく。 生徒会役員が中心となる学校行事への移行 行事への参加率を高める。 <p>イ・新入生を中心に部活動加入率の向上をめざす。</p> <p>ウ・地域行事への積極的参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期計画推進費により整備した農場等、校内の各種特別教室を活用した近隣幼稚園・保育所等との連携及び地域住民との交流を図る。 学校協議会における「地域連携に対する学校の取組み」関連評価の向上をめざす。 <p>エ・ホームページや咲洲メールマガジン等を通じて情報発信を行う。</p> <p>(2) 生徒を理解し、守り、育むために</p> <ul style="list-style-type: none"> —中退防止の為の指針の実施— <p>ア・“何かあれば家庭訪問”を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの個人懇談を活用し、全員の保護者との意思疎通を徹底する。 <p>イ・新入生を中心に中学校との連携を密にとり、中学校からの支援も依頼しながら生徒の育成にあたる。特に退学しそうな生徒に対しては中学校・保護者と連携し支援にあたる。</p> <p>ウ・生徒相談体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談室の活用と家族相談会の実施。 保健相談部と支援委員会の情報共有と連携を図る。 支援委員会を中心とするケース会議を実施し、場合によってはSCやSSWの参加も要請する。 生徒指導部と保健相談部が連携し、心のケアを必要とする生徒へのサポートを強化する。 <p>(3) 生徒の支援</p> <p>ア・支援委員会を活用し、必要な生徒へは学校を挙げて支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高校生活支援カード」の積極的活用 <p>イ・ニーズに応じた職員研修の実施。</p> <p>ウ・豊かな人権教育を推進し、3年間を見通した人権教育計画を策定する。</p>	<p>(1) 学校行事等の改革</p> <p>ア・入学時オリエンテーションの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事への参加率70% <p>イ・部活動の加入率40%</p> <p>ウ・地域行事へ年間2回以上の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内施設を活用したクラブ&インス等の地域交流事業を年間3回以上実施する。 交流事業の広報活動として、自治会掲示板の利用などの施策を講じる。 農場を活用し、年間2回以上の地元幼稚園との連携及び地域住民との交流 <p>エ・ホームページをタイムリーに更新し情報発信に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> (年間100回以上の更新) 年間3回の中学校訪問・2回のオープンスクール・3回の学校説明会の実施 <p>(2) 中退率の前年比10%減少</p> <p>ア・家庭訪問強化週間を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科生への生徒指導規律の徹底を図ると共に、保護者の理解を深める為の家庭訪問を推奨(年間総数250回) <p>イ・新入生の出身中学への訪問、中高連絡会等、中学校との情報交換を3回以上実施する。</p> <p>ウ・年間3回の保護者懇談、各学期に1回の家族相談会を実施する。</p> <p>(3) 生徒の支援充実</p> <p>ア・支援委員会の毎週開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健相談部と支援委員会が連携し「高校生活支援カード」を作成する <p>イ・支援教育を中心とする職員研修を年間10回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員研修への参加率を60%以上 <p>ウ・3年間を通じた人権教育計画の策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●行事参加率70% (○) <ul style="list-style-type: none"> 遠足82% (69%) スポーツフェスティバル71% (64%) 文化祭72% (62%) 芸術鑑賞54% (38%) ●部活動加入率(同好会含む)(△)38% (34%) ●地域交流 (○) <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の町・花の町祭 ・幼稚園芋植、芋掘 (5/9 10/24) ・家庭科授業で幼稚園と交流 ・珠算出前授業 <ul style="list-style-type: none"> ・ボート川内4小学校 ・公開講座(10/24〜) ・美陶、書各4日 ●ホームページ更新(○) <ul style="list-style-type: none"> ・データ更新 ・メールマガジン ・修学旅行 等 100回以上更新 ●広報活動(○) <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問実施済 ・学校説明会3回。オープンスクール2回 ●中退率(◎) <ul style="list-style-type: none"> 退学者数・率 62 (139) 16% (30%) ●家庭訪問 (△) <ul style="list-style-type: none"> 172回(273回) ●懇談会・家族相談会実施(○) ●支援体制(○) <ul style="list-style-type: none"> ・支援委員会考査毎 ・支援カード作成・活用 ・個別の支援計画 ・学習支援・ケース会議 ●職員研修参加(○) <ul style="list-style-type: none"> 全体研修3回60% ケース会議8回他2回
<p>3 夢と志を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 確かな進路保障</p> <p>(2) 規範意識の醸成</p> <p>(3) 挨拶・返事・清掃の徹底</p> <p>(4) インターンシップ活動の奨励</p> <p>(5) ボランティア・地域活動へ参加</p>	<p>(1) 入学当初からキャリア教育を充実させ「夢咲く未来」の実現を図る。</p> <p>ア・卒業生全員の進路実現</p> <p>イ・積極的に外部人材の活用等も視野に入れながら、「産業社会と人間」や総合、LHRの時間を活用し1年生からのキャリア教育の推進を図る。</p> <p>(2) 生徒指導規律の徹底を図り、全体生指の発想での生徒指導体制で臨む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導室の効果的活用 遅刻生徒へは生徒指導室において入室許可証を発行する。 制服・頭髪等みだしなみ指導の徹底 学年職員室の活用 <p>(3) 教員が模範となり、「だれでもいつでも挨拶する」ことの徹底。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回の清掃活動等の奉仕活動の実施。 <p>(4) 夏季学校外学修で行う各種企業等への体験学習を充実させる。</p> <p>(5) 生徒会を中心に各種ボランティア活動や地域行事へ積極的に参加する。</p>	<p>(1) 卒業生徒の進路先決定100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の100%進路先決定 ・就職対策としての徹底した面接指導 <p>(2) 遅刻者の大幅減少(年間総数を10,000件以下に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会を学期に1回実施し定期的な頭髪指導にあたる ・総合学科では毎朝SHRを行なう <p>(3) 清掃活動を各学年、年2回以上実施する</p> <p>(4) インターンシップへの参加者を15名以上に</p> <p>(5) HP、校内掲示等を通じ、ボランティア活動をこれまで以上に奨励・推進する。(年間2回以上のボランティア活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●進路決定状況 (○) <ul style="list-style-type: none"> ・学校斡旋就職 25/25 ・進学状況 32/32 関外大、摂南大他 ●懲戒件数(△) <ul style="list-style-type: none"> 48件73人(26件35人) ●遅刻指導 (◎) <ul style="list-style-type: none"> 8,975 (10,423) ●インターンシップ 7名 (△) <ul style="list-style-type: none"> 実施状況は良好 ●ボランティア (△) <ul style="list-style-type: none"> 校外清掃各学年1回 大阪マラソンボランティア 24名参加